



【人生のまことの成功を望むあなたへ】

聖書本文:ルカの福音書19章1-10節/暗唱聖句:使徒の働き16章31節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! 一週間の間も元気で、守られましたでしょうか。今日はまことの成功について聖書の御言葉をとおしてともに考えたいと思います。人間であるならだれでも成功の人生を送りたいという欲望があり、このためにみんな自分たちなりに一生懸命に努力しているでしょう。成功の人生と言うと成功そのものを目的として考える人がいれば、平凡な生活においてそれなりの生きがいを感じながら生きている人々もあります。するとまことの成功、まことに成功の人生とはなんでしょうか。ところが、こんにち、成功を勘違いしている人々が大勢いると思います。

1. 成功の基準とは?

多くの人々は成功を金、権力、名誉、良い学校、職場、出世だと思っています。しかし、自分は成功したと思うかもしれませんが、実際にはそうでない人々が多くあります。アメリカ人を対象に‘個人的成功の基準’をリサーチした結果一番多かった答えはなんだと思いますか。1位が健康、2位は楽しく働ける職業、3位は幸福な家庭、4位は良い教育、5位は心の平安、6位は良い友達でした。みなさん。はたしてこれらはまことの成功の基準となれるのでしょうか。学歴が成功の全部ではありません。勉強ができるという成功したではありません。世界的物理学者だったアインシュタイン(Albert Einstein)もチューリヒ工科大学に落ちた経験もありました。世界的企業家であるカーネギー(Andrew Carnegie)、イギリスが生んだ世界的な俳優であるチャールズチェプリン(Charles Spencer Chaplin)、世界的小説家であるディケンズ(Charles John Huffam Dickens)やマークトウェイン(Mark Twain)、画家モーネ(Claude Monet)、劇作家ショーンオクケーシーなどは小学校さえも出ませんでした。自動車の王と呼ばれているヘンリーフォード、作曲家ジョージゴースウィン、小説家ジャックロンドン、映画の俳優スティーブマククイン、画家モディリアニ、世界最初の飛行士ライト兄弟などはみんな中学校中退者たちだったそうです。つまり、人生の成敗はある試験の合格の可否とは関係ありません。人間の幸福は大学卒業の修了証や華麗な活躍ではありません。人生の成敗と幸福とはどんな価値観をもっているかによります。

世界で一番の金持ちだったジョン・ロックペラー(John D. Rockefeller)は1839年、アメリカで生まれ、子供のころあまりにも貧しい生活をし、若い頃、彼は将来が見えないということで愛していた女から振られました。彼はこのような決心をしたそうです。‘私はこの世界で一番の金持ちになってやろう。’それでこどものころからお金を稼ぐのに夢中に働く生活でした。そしてついに33歳の若いときに [スタンダード]石油会社の社長になり、百万長者になりました。そして43歳のときは、アメリカでは初めての大規模のトラストを形成して世界一番の財閥企業のオーナーになりました。そして10年後である53歳にはついに世界に一人しかいない億万長者になりました。ロックペラーは彼の願いとおりに世界一の金持ちになりました。貧乏だった少年の人生が後、世界で一番金持ちになる奇跡を起こしました。それで彼は成功し、幸せな人生だったのでしょうか。しかし彼はここで満足せずにひたすらさらさらにお金をもうけるのに忙しくする日々を過ごしていましたが、翌年54歳に彼は‘アロピシャー’という(alopecia)という不治の病気にかかってしまいます。髪の毛と眉毛(まゆげ)も全部ぬけ、体はやせていき、麻痺し、ねじまがって行くため不眠症で眠れない夜を過ごし続けました。食べ物も消化ができなため、一日中食べるものは、たった牛乳一杯といくつかのビスケットが全部でした。彼の主治医はロックペラーの受命は1年以内だと診断されます。今までお金をもうけるのに血眼(ちまなこ)になっていたのに、彼の周りには多くの敵も多かったでしょう。つまり、彼が死ぬことを首を長くして待っていた人もそれほど、多かったということです。ここまで見ると、ロックペラーの人生は成功した人生、幸せだった人生だと言えるでしょうか。

2. 自分の成功のため必死であった収税人長のザアカイ

今日聖書本文ではみなさんにまるでロックペラーととても似ているある一人を御紹介したいと思います。みなさんにもよく知られているザアカイという人です。ザアカイはエリコという町の(ぜいむちょう:収税人のかしら)だと呼ばれました。当時エリコは有名な香料(こうりょう)の生産地だったので、税金による収入がどんな地域よりも多く出た地域でした。そういうわけで、当然 税務長だったザアカイは財力も、名誉も十分に持っていました。ところが、ザアカイは不幸な人でした。実はその当時社会制度上、収税人という仕事はお金と権力の出世の近道である職業でしたが、そんなにあこがれの職業ではありませんでした。なぜなら当時人々にとって収税人を売国奴(ばいこくど)か、たけだけしい毒蛇(どくへび)のように扱われたからです。当時収税人についてはやっていたことわざがありました。

“山には獅子がいるし、荒野には毒蛇がいる。町内には収税人がいるのだ。”収税人たちはローマの指示を受けて同族のイスラエルの民たちに税金以上のお金を容赦(ようしゃ)なく奪い取ったからです。そのため収税人たちは暴悪に振舞わなければなりません。そのおかげで自然に彼らはお金を儲ければもうけるほど、恨みを抱いた人々からの延声(うらみ)も高くなっていったはず。そんな収税人たちの中でもザアカイはかしらだったので、どれほど人々は彼を憎み、恨んでいたのか十分分かって来ます。しかし、彼にはそんな周りのことは気にせず、回りがどうなっても自分とは関係ないと思込んで、ひたすら自分の人生の成功だけを目指して働いて来た者でした。

それでお金、出世、りっぱな家などすべての物を手にいれたザアカイでしたが、なぜ彼がこうなってしまったのか。いろんな原因があるとは思いますが、一つ明確な彼にも一つの体のコンプレックスを持っていた事が分かります。何でしたか。

みなさん！そうです。彼は背が普通の人よりとても低かいということでした。それで、‘背低いザアカイ’だとよく言われたほどだったようです。みなさんは身体のコンプレックスって持っていますか。多分このザアカイは自分の背が他の人よりも全然低かったため、自分の中では多くのストレスと傷を抱いていたと思います。それで、ザアカイは他の人々と自分を比較しながら、自分のおもてだけを見て、自分を無視したり、自分を低くさせる人々を憎み、その憎みが憎悪(ぞうお)になり、人々に仕返ししたという気持ちで一杯だったかも知れません。それで純潔という意味の名前を持っていたザアカイでしたが、自分の名前通りに生きるのをやめて、町の人々を復讐する道を選んだかも知れません。‘そうや、人々に仕返しできることはただ、財力を持つことしかない、彼らよりもっと出世して高い立場と名誉を持てればできる！’と考えたと思います。そんな彼にはどんな仕事をするかより、ただお金をもっとたくさん儲ける仕事なら、どんな仕事をしてかまわない気だったと思います。それで彼は結局人々を苦しめながら、お金を儲けることもできる収税人となり、血も涙もなぐだれよりも熱心に人々から無理やりにお金を奪い取った結果ついに彼は収税人のかしらまでに上がったわけです。自分が目標した通り、目指した通りに必死に金も名誉も、出世も手にいれ成功した人生だと思いこんでいたと思います。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん、みなさんも言わないけど、自分なりの変えないコンプレックスや劣等感などを持って生きているかも知れません。ある人は言えないし、見せないけれどもそれぞれ傷や悩みもあります。そして、ザアカイのように人は自分なりに成功した人生はこれだという基準を作っておいてそうなるため必死に目指して生きています。私たちの中でも今日のこのザアカイさんのような考え方や生き方を持っていらっしゃる方はいませんか。実際大体この世の人々はザアカイのような考え方や価値観を持って生きるのが当たり前かも知れません。そもそも現実的にそれが成功した人生だと思いこんで人も多いのではありませんか。

しかし、今日の御言葉には直接書いてないですが、一つ推測できることがあります。ザアカイは収税人長になってから、続けてお金が積み重なって行けば行くほど、彼の心は空しくなり、いつの間にか自分の周りには自分のための人はだれもいないような孤独感や疎外感に襲われ、うなされていたようです。彼は人の成功、幸せ基準は、金や人々からの得られる名誉にあり、自分の所有している物質を多く持っているか、少なくあるか次第しか知らなかったのではないのでしょうか。彼は願ったほどのお金、権力は手にいれましたが、今の自分の人生を振り返って見ると、耐え難い空しさと不幸の自分に直面していました。

3. 真の人生の成功: 救い主イエスキリストと出会いから始まる

相対性(そうたいせい)原理を創案(そうあん)した世界的な物理学者であったアインシュタイン(Albert Einstein)はこのような言葉を残しました。“成功しようとする人になろうとしないで、価値ある人になれ。”と。エリックフロムという有名な心理学者は人の人生を二つの種類に分けました。“所有なのか存在なのか”。今日この世に住んでいる多くの人々は大体所有のために、あるいは今自分が所有している物で生きる目的や生きがいを覚えている場合が多いという意味です。様々なブランド名品を所有するために、そして物質とお金、知識と成功と権力などを所有するために朝から晩まで必死に働いている人が多くいます。反面、比較的少数の人たちですが、自分はどんな存在なのか、この一度しかない人生の間、どんな存在として生きるべきなのか真剣に悩み、もっと価値ある人生として行きようとする人もいと彼は指摘しています。とても鋭い指摘じゃありませんか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！まことの人生の成功は自分がこの世に生まれ、生かされている目的と、自分が存在する目的を悟り、生きることです。自分は一体誰のために、何のために、生かされていて、生きるべきなのか人生の意味と目的を探した人のみが成功した人生を送ることができると思います。我らの人生はいつたどこから来て、どちらに向って行くのか、そして、この人生が終わったら、それでもうおしまいになるのか、その後はどうなるのかについて知らなければなりません。聖書のローマ人への手紙11章36節の御言葉にはこう書いてあります。“**“というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。”**

イエス様は我々の創造主なる神様であられ、我らの罪を赦され、救うことができになる神様です。収税人長であったザアカイはたとえお金がたくさんあり、素敵な家に住んでいたとしても、彼の心には平安と喜び、人生の真の満足がありませんでした。そんな彼の人生は決して成功したような人生じゃありません。却ってただ必死に生きて来た結果、彼の心には人生の空しさ、罪責感と罪意識に満たされていたからでした。罪が心の中に占めていると、真の幸福、人生の真の喜び、感謝、満足、平安を経験することができなくなります。そんな空しい日々をすごしていたザアカイにイエス様がもうすぐエリコの町を通り過ぎるようにあるというわさが伝わってきました。ザアカイは一度もイエス様と出会ったことはありませんでしたが、うわさはよく聞いてたようで、よくその方がどんな方なのかは知っていました。イエス様がどれほど愛の深い方であるか、罪人たちと貧しい人々、疎外された人々や助けが必要な人々の友となって下さる素晴らしい方であり、人の罪を赦し、癒し、回復させて下さる霊的な権威と力を持っておられるお方であることを知っていました。そのイエス様をザアカイは切に会いたがっていました。

そして、彼は自分のすべてのやっっていることをうっちゃらかしてエリコの町に出て行きました。ただイエス様を見るために回りの目は気にせず、走り出しました。イスラエルの社会はいくら忙しくても大人が急いで走ったりする文化ではなかったことを覚えると、どれほど、イエス様に会いたがっていたのか、必死に、懇切な彼の心境であったことが十分伝わってきます。町には大勢の群衆でもう一杯になってました。ザアカイはとても背が低かったので、到底イエス様の顔すら見ることができませんでした。しかし、彼はあきらめませんでした。どうすればイエス様と出会えるのかだけひたすら願い、考えて

いました。もしかして、今日今のこのチャンスを見逃してイエス様と今回会えないと、もう明日の自分はどうなってしまうのか不吉(ふきつ)な予感を感じたかも知れません。ちょうど近くに高いいちじく桑の木が見えました。彼は大胆にそのいちじく桑の木に登りはじめました。すぐ登らなかったかも知れません。急いで登ろうとするため何度も滑られたかも知れません。回りの人々が自分をどういふに見ても、あざ笑っている声が聞こえても、社会的な自分の体面さえも関係ありませんでした。それでザアカイはいちじく桑の木に登られました。ついに離れて遠くても会いたかったイエス様の御顔が目に入ります。しかし、イエスキリストの前では自分があまりにもみじめのように人間のように感じていたザアカイはまともにイエス様を見ることができず、密かに見ていたようです。

どろこが、イエス様はちょうど通りすぎようとしながら、そのいちじく桑の木の近くで足を止めました。そして、上を見上げて、ザアカイに向かってこう語られました。“ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日はあなたの家に泊まることにしてあるから。”だれよりイエス様を切に捜し求めていたザアカイの魂の叫びをイエス様はすでに知っておられ、聞いておられたと信じます。神様は自分を切に探し、切に求める者たちと出会わせてくださると約束された通りにそのようになされました。箴言8章17節“わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に探す者は、わたしをみつける。”

今日の礼拝に来られ、共に集っている愛するみなさん！我々には今主に向ってこのような切なる心、求める心を持っているでしょうか。今も意外と我々の周りには話してないけど、表せないけど、ただ頑張りズムで目の前にあることに一生懸命に働きながら人生のレースを走って来たのにもかかわらず、もう人生のさまざまな問題にかかわり、追われて、いつのまにか人生の無気力な疲れや、人生の空しさや孤独を覚えたり、ある人は罪意識に捕らわれている方はいませんか。‘だれかまことの神様の存在がいらっしゃれば、今の自分を本当に助けてほしいと、本当に救ってほしい’と切に捜し求めている方はいませんか。イエス様がそうされたように、我々も周りの人々からそのような魂の叫びを聞いてあげなければなりません。今日の御言葉でザアカイが今日愛のイエス様、救いの神、まことの神と会えないと、もう明日はどうなるかわからないかのような飢え渴いた切なる心でイエスキリストと出会えることを求めました。今も主イエスキリストの救いを助けの御手を待ち望んでいるこのザアカイの心を持っている方々が教会の中にも、外にも大勢いるのではありませんか。

4. 真の成功と幸福の基準: イエスキリストの受け入れる事により真の悔い改め(人生の変化)と救い

ザアカイはあまりにも嬉しかったゆえ、いままでたまっていたストレス、寂しさ、疎外感、孤独感など大きな重荷が下ろされた気がしました。彼はイチジク桑の木の上から飛び降りてきてイエス様を自分の家に受け入れました。今までも経験出来なかった平安がおとずれます。喜びが満ち溢れます。そしてザアカイはイエス様に受け入れてながら徹底的に悔い改めます。聖書はこのように証言しています。“ところがザアカイは立って、主に言った。「主よ。ご覧下さい。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれかれでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。(ルカの福音書19:8)”

当時律法によりと自発的に弁償をしようとする者は不法的に得た金額の1/5を返すべきだという記録があります。(レビ記6:5,民数記5:7,出エジプト22:1,第二サムエル12:6)。しかし、ザアカイはイエス様に会ってから二度も以前の生き方を徹底的に悔い改め、切りました。自分だけの悔い改めではなく、自分が損害を与えた人や間違っけて傷つけてしまった人たち全員に社会的な常識以上心からの謝罪と弁償をさせたわけです。するとイエス様は“きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。”と彼の信仰が間違いなく、神の救いがこの家に与えられたと祝福してくださいました。イエス様はほかの人たちのように悪者とか、罪人扱いされませんでした。非難もせず、悔い改めなさいと先に命じられたわけでもありません。イエス様はただ彼の家に入られて彼を愛し、ま味わって下さいました。ザアカイは自らイエスキリストを受け入れ、悔い改め、罪赦されました。ついに曲がっていた自分の正しい存在がキリストイエスによって回復されるようになったのではないのでしょうか。

みなさん!なぜ我々の心にはまことの平安と喜びがないのでしょうか。それは我々はみな罪人だからです。我々は神の前で神から離れ、神を否み、唇で罪を犯し、心の中で、思いの中で、生活において数え切れないほど罪を犯しながら生きています。一生涯の間はなおさらです。我々はこの罪の問題をかならず解決しなければなりません。聖書は記しています。“義人はいない。ひとりもない。”(ローマ人への手紙3:10)と断言して下さいます。

そういうわけで神は人生の罪の問題を解決するため御自分で直接この地に来られました。つまり我々ためにこの地に来られた神がこのイエス・キリストです。神の御子イエスキリストは旅人のようにさ迷っている我々の人生を神の国に入らせるためにこの地に来られました。そして我々の罪を赦すために、我々の代わりにすべての罪の代価を払って十字架にかかって死んで下さいました。十字架の上でイエス様の最後のおことばは“完了した。”というお言葉でした。これはすべての人の罪の代価を神なるイエスキリストに全部支払ってくださったという意味です。そして預言の通り三日目によみがえられました。そういうわけで我々の罪の代価を払い、ふたたびよみがえったイエス様を信じる人はだれでもあらゆる罪を赦されることができます。ですから生かされている人生において何よりも大事なものは永遠に生きておられる神様に出会って自分の罪の問題が赦され、解決し、永遠の命を得、永遠の御国に入ることです。神様の子なるイエス様がこの世に来られ十字架につけられ死んで、三日目によみがえられたのはまさに人間の死の問題を解決し永遠の命を与えるためだったのです。姦淫した現場から捕まえられて来た女に人々は石を投げ殺そうとしました。その時イエス様は“あなたがたの中で罪のない人がさきに石を投げなさい。”と言われました。罪について良心の呵責(かしゃく)を感じた人々は全員退(しりぞ)かれました。イエス様はその女に言われました。“娘よ。わたしもあなたをさばかないのだ。わたしもあなたを

赦す。行って二度と罪を犯さないように！”どんな人であっても、どんな罪を犯した人でも、イエス様に出てくる人をイエス様はみな赦してくださいませ。

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん、イエス様を信じればすべての罪は赦され、救われ、御国に入る事ができます。聖書は約束しています。“神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。”(ヨハネの福音書3:16) “主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。”(使徒の働き16:31)

先ほど、メッセージの始まりの時、世界で一番の金持ちだったジョン・ロックペラー(John D. Rockefeller)の話をしました。53歳に自分の夢を叶え世界で一番の金持ちになった彼でしたが、54歳に‘アロピシャー’という(alpecia)という不治の病気にかかってしまい、後余命1年以内だと診断された彼の人生はその後、どうなったのでしょうか。ロックペラーはそれを聞いて食べることも、眠ることもできず、悩みながら、彼は死を目の前にし自分の人生を整理しながら、生まれて初めて自ら真剣に神様の御言葉である聖書を開いて読み始めます。そして、今までの自分と人生の生き方を涙を持って悔い改めながら、救い主イエスキリストを受け入れました。その後、彼は次の日曜日から教会に通い始め、まことのクリスチャンとなったのです。“人生というものはお金で買うことはできず、金も、命も、この世のすべての物が神からただ一時的に預かっているだけで、実は神が全てをおさめておられる”ことを悟られ、実際そのように生きる事を決心し、早速実行します。それで、1年の余命だった彼を通して神は以前の奇跡より比べられないもっと意味があり、価値ある2つの奇跡を起こして下さいませ。

一つ目は、歴史上一番大金をほかの人々に分け与える者になったことです。ロックペラーはいままで自分がわづかみで生きてきて、手を開いて分け与えることを知らなかったことに気づかされました。集めるには、今までは必死で集めたのだが、おそかけの自分の生涯を整理し、精算(せいさん)する心境の中で開いた御言葉を通して彼は悔い改め、早速手を開き始めました。そして助けが必要なところに、貧しい人々に与え始めました。彼は多くの人々が神様の愛を知るように自分の財産の一部を教会に献金して、たてられた教会がニューヨークの名所である美しい教会[リバーサイドチャーチ]です。それ以外にも主のため4,928個の教会建てる事に協力したり、社会的にも貧しくてあまり教育を受けられてない人々に学ぶ機会を多く与えるために彼の寄付によってたてられた大学が今日の名門大[シカゴ大学]です。その大学は100年の間70人ノーベル賞を受賞しています。シカゴ大学から始め12個の総合大学や12の短大を建てました。そして1931年には世界的な慈善事業を体系的にするために[ロックペラー財団]をつくって彼の全財産を貧しい人々のために寄付する本当に意味ある働きに彼の最後の人生を送りました。世界の平和を祈りつつ今のUN本部建立する時、自分の土地を寄付しました。彼以来4代目続き慈善事業をやっています。一生涯、彼が慈善事業にささげたお金だけで5億ドル(約560億円)を越えだそうす。

二つ目の奇跡は長寿(ちょうじゅ)の事でした。不思議に救い主イエスキリストを心から信じ、教会に通いながら自然によく食べ、よく眠れるようになりました。さらに自分が悔い改めてから彼が手を開いている間、さらに体も不思議に回復される驚きの奇跡を経験しました。医者らは彼が55歳を越えないだろうと言いましたが、彼は43年間命が延ばされ、なんと98歳まで長生きが出来たのです。その以来、虫歯一つもなく、彼は召されるまで健康に生きることができたようです。彼は一度もかかさず、日曜日の礼拝に出席し、子供学校の教師として子どもたちのためにも奉仕をしました。一度もかかさず食事の時は神様に感謝の祈りをささげ、毎日聖書をかかさず読んだそうです。年老いて目があまり見えなくなつてからは聖書を読んでくれる人をやとって耳で聖書を聞きながら毎日神の御言葉の聞き、そのように生きようとなりました。今世界の人々はジョン・ロックペラー(John D. Rockefeller)を世界で一番の金持ちとしてより、多くの人々のため惜しみなく分け与えた人物として覚え、尊敬しているのではないのでしょうか。彼の人生がこんなに180度変わった理由は彼は本当のクリスチャンだったからでしょう。名前だけではなく、心から悔い改め、イエスキリストを受け入れたため彼の残りの人生が変り、あんなに祝福されたのではないのでしょうか。彼は神の前でも、人々の前でも、間違いなく成功した幸いな人生だったと言えるでしょう。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！人生の成功、人生の幸せを望みみなさんはイエスキリストを真に受け入れ信じ、悔い改めてからみなさんはどう人生が、行き方が、価値観が、行いが変わっているのでしょうか。

<まとめ>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!まことの成功とはこの地に遣われた目的と今生かされ存在する目的を悟って生きることです。まことの成功とは我々を創造し救ってくださるイエスキリストに出会うことです。その神が今日もみなさんを愛しておられます。私さえ成功し、幸せになればそれで終わりではなく、全ての人々がともに人生のまことの成功者となるように、キリストにあって幸いに生きれるように祈りながらその人々に愛の仕えを持って導こうではありませんか。

今日聖書で人生のすべてを持っていたザアカイも世では自分の願いを全部手に入れていましたが、実は人生の成功者、幸せではありませんでした。一生彼を苦しめたコンプレックス、罪責感、孤独感、疎外感、空虚感(くうきょうかん)に満ちていた彼がイエス様に出会うことにより変り、新しい人生を踏み出すことが出来ました。そのように我々も含め、まわりの人々がこのキリストにある平安の道、回復の道、救いの道を選び取り、歩めるように彼らの救いのため、愛の仕えを持って導かなければなりません。今日イエス様を受け入れ神の御国(天国)を味わったザアカイとその家族への祝福が今日クリスチャンプレイズチャーチの家族のみんな上に、そして我々を通して多くの人々の上にも等しく臨まれますように主の御名によって祝福します。アーメン!